

鈴鹿医療科学大学

同窓会会報 2007 春

平成19年5月20日発行

発行：鈴鹿医療科学大学同窓会 事務局

〒510-0293 三重県鈴鹿市岸岡町1001-1

鈴鹿医療科学大学内

FAX: 059-383-9666

E-mail: mail@sums-aa.com

ホームページアドレス: <http://www.sums-aa.com>

目次

◆ 会長挨拶(新卒業生に向けて)	1	◆ 同窓会活動報告	7
◆ 新卒業生レポート	2	◆ 母校レポート	8
◆ 恩師メッセージ	3 4 5	◆ 編集後記	8
◆ 同窓会ブース当選者の声	6		

会長挨拶



鈴鹿医療科学大学同窓会会長 武藤裕衣(放射1期・本学教員)

新卒業生の皆様、ご卒業まことに
おめでとうございます。
挨拶に先立ちまして、先日の能登半
島大地震の被災者の方々に對しま
して、心からお見舞い申し上げますと共
に、一日も早いご復興をお祈り申し上
げます。

さて、新卒業生の皆様におかれま
しては、鈴鹿医療科学大学に入学さ
れ4年間、勉強やクラブ活動に励み、
友人を作り、また研究活動にと、忙し
い生活の中大学生活を過ごしてこら
れたことと存じます。これからは、鈴鹿
医療科学大学で学ばれたことを病院・
企業などそれぞれの立場で実践して

いくこととなります。社会は年々厳しさを
増していと言われてはいますが、一
方で、若手社会人への期待と役割も
大きいものであると思います。恩師や
友人からの助言・ご家族との相談、そ
して自分自身で選んだ進路です。失
敗を恐れず、精一杯、前に向かって
進んで行っていただきたいと思いま
す。

さて、鈴鹿医療科学大学は、今か
ら17年前に開学しました。その後、理
学療法学科、医療福祉学科および鍼
灸学科が開設され、来年4月には薬
学部開設が計画されています。また、
本同窓会は第一期卒業生によって
設立されましたが、卒業生数もこの3

月で3700人となりました。

今、私たち一人ひとりの立場や生活
は決して同じではありません。しかし、
かつて鈴鹿で共に過ごした思い出と
時間を大切にしていくことで、それぞ
れの生活が少しでも潤いのあるもの
になればとの思いを抱きつつ、同窓
会役員一同、母校と卒業生との交流
および発展のために、また、より強固な
ネットワーク作りのために今後とも努
力して参りたいと存じます。皆様には、
今後とも本同窓会へのご協力の程
賜りますよう、何卒宜しくお願い申し
上げます。

2006年度学位授与式が挙行されました

暖かい陽気の中、去る2007年3月16日に2006年度学位授与式が挙行され、第13期卒業生287名(保健衛生学部206名、医用工学部81名)が誕生しました。早い春の暖かさと卒業生の皆さんの晴れ姿、晴れ晴れとした明るい表情がとてもマッチしとてもすがすがしいさわやかな雰囲気でした。



新卒業生レポート

医用工学部 臨床工学科 河原賢二さん

僕が5年間の大学生活で学んだものは、知識や学問などと共に人とのつながりの大切さでした。見習うべき人、そうでない人もいましたが、それらの人たちの関わりを経験として今後の生活に活かしていきたいと思っています。周りの人たちの協力があつたからこそここまで来ることができました。人は誰かのために生きています。この学校を卒業して社会に出ても、このことを忘れずに人に必要とされる大きな人間になれるよう歩んでいきたいと思っています。

保健衛生学部 放射線技術科学科 石角静香さん

大学生活では自分のやりたいことに挑戦することができたと思います。所属していたバスケットボール部では部長をつとめ、他学科の仲間もでき仲間と支え合いながら大会に挑むことができました。今とても充実した大学生活を送れたと実感しています。また学校生活では友達と一緒に授業や研究に励み、国家試験に挑むことができました。

今は就職することへの不安もありますが、大学生活で学んだことを活かせるように頑張りたいと思います！

医用工学部 医用情報工学科 山野護さん

大学での4年間は人生の中では短い期間ではありましたが非常に充実したものとなりました。恩師やクラスメイトと出会い、喜怒哀楽を共にした学生生活でした。学生として4年間、クラスメイトたちと同じ道を歩んできましたが、これからは社会人として別々の道を行っていきます。辛い事も多々あるとは思いますが、遠く離れた地で仲間達が頑張っている事を励みに、私は私の道を一步一步確実に前に進んでいきたいと思っています。

保健衛生学部 理学療法学科 森本ちはるさん

私の大学生活は、多くの人と出会った4年間でした。クラスや部活の友達と一緒に勉強や部活を頑張ったり、飲み会をしたり、旅行をしたりと楽しい思い出がたくさんできました。また、病院での臨床実習では、悩むことも多かったけれど、自分が一番頑張った期間だったと思います。これからは理学療法士としてしっかり勉強し、友達やお世話になった先生方に成長した姿でまた会えたらいいなと思います。

保健衛生学部 医療栄養学科 平野朝美さん

4年間の講義では、就職先の仕事だけでなく日常生活においても役に立つ栄養や疾病についての知識を幅広く学ぶことができました。そのなかでも臨床栄養学の講義と実習は、疾病別の調理の工夫について学び、実際に調理することができたので、もっと時間数があつたらいいのになあと感じました。長期休暇中には学外でもいろいろな経験ができたということもあり、大学生活は社会人の前段階としてかけがえのないものだったように思います。

● ● ● ● ● 恩師からのメッセージ ● ● ● ● ●

今回は前田宏先生、小倉和恵先生、石渡裕政先生にメッセージをいただきました。前田先生は情報工学科教授、小倉先生は医療栄養学科・大学院医療栄養学専攻教授、石渡先生は医用工学部・大学院画像情報学専攻教授として、長年教鞭をとっておられましたが、2007年3月末で職を辞されました。卒業生にとって先生方が職を辞されたことはとても寂しく感じるのですが、先生方からとても暖かい心にしみるメッセージを頂きました。先生方の今後のご活躍をお祈り申し上げます。

■ 医用情報工学科 教授 前田宏先生

学生たちと歩いてきた13年間



私は、3月末で定年退職しました。私が大学に赴任したのは本学の完成年度である平成6年4月です。1回生が4年生になったときです。13年間に80名以上の卒研生のお世話をしたことになります。

本学は、チーム医療を担う医療人(コメディカル)を育成する4年制大学として全国で最初に設立されたものです。その後、医療系短大が4年制になったり、新しく同様趣旨の大学が設立されるなど、の流れを考えると先見の明はすばらしかったと思います。卒業生も社会人として重要な立場で活躍している人たちもいます。

私が赴任した頃は、2学部4学科で、冷房設備も学内LANもありませんでした。現在では3学部7学科になり、冷房設備や学内LANはもちろんのこと、新講義棟や中村ホールなど整備されています。さらに薬学部の新設も決まっています。

その間、医療の分野では、医療機器の進歩や医療情報の活用など著しい変化の波が押し寄せています。

私は、医用情報工学科に所属し、多くの学生たちと接してきました。

着任2年目の平成7年度から、就職担当を7年行いました。当時は現在のような「売り手市場」と違って「就職氷河期」といわれていた時期で、就職課(後の学生課)の榊原正一さんとのコンビで学生たちを指導し就職内定率約100%を続けました。いろいろなことがありましたが、私が精力を注ぎ込んだことです。

平成9年度から、榊原さんに頼まれて学友会顧問になり9年間続けました。

最初の頃は、学友会の基盤ができていなかったのですが、当時の役員達が頑張ってくれて基盤ができてきました。私も一緒に考え悩み、楽しいこともありました。学友会活動は、学部、学年を超えて一緒に活動するので、友達もたくさんできます。学友会の時の繋がりが卒業後も続いているのは、結構なことでした。

最近、現役の学友会役員とOB/OG達との繋がりができたのは、よかったと思います。このような就職関係、学友会関係と一緒に学生たちと接してきた榊原さんが、昨年5月に亡くなったのは残念なことでした。御通夜に卒業生が約100名集まったようですが、い

かに学生たちに慕われていたかを示すものです。

私は、平成11年度から3年間、学科長をつとめました。当時は、医用情報工学科の学生が集まらなくて大変なときでした。私が最も注力したことの一つに「診療情報管理士」の認定校になることでした。他学科の先生達の協力も得てカリキュラムを整備し、全国で4番目の認定校になりました。世の中も医療のIT化、「DPC(包括医療制度)」の導入や、診療情報公開の加速などによって、医療機関における「診療情報管理士」の必要性がたかまり、医療機関からの求人が急増してきています。

以上述べたように、私はいつも学生と向き合ってきました。退職にあたって卒業生たちが、声を掛けてくれるので「私が教員になってよかった」と感じているこの頃です。

卒業生のみなさん、社会に出ると厳しい荒波に直面することもあると思います。いつも前向きに取り組んで下さい。「万事塞翁が馬」というでしょう。

そして、人のつながりを大切にして下さい。

■ 医療栄養学科 / 大学院研究科 教授 小倉和恵先生

同窓生の皆様 ～退職の日に～



同窓生の皆様、お元気にご活躍のこと心よりお慶び申し上げます。さて、私はこの3月定年退職の日を迎えました。皆様から、人生の宝物を沢山頂いたことを、心から感謝致しております。

こうしてペンをとっていますと、過ぎ去った日々が走馬燈のように、しかも、その場面ごとに皆様の元気のよい声までもが、鮮明に蘇ってまいります。

平成3年の開学の翌年、平成4年10月から約15年間お世話になりました。顧みますと、母校の恩師が鈴鹿医療科学大学〈建学の精神〉「科学技術の進歩を真に人類の福祉と健康の向上に役立たせる」、〈教育理念〉「知性と人間性を兼ね備えた専門技術者・研究者の育成」を私に見せて下さった時、感動を受け、是非この大学へ行かせて下さいとお願いいたしました。当時まだ、校舎の基礎工事が始められたところで、

杭が打たれ、グラウンドの向うまで広大な土地が広がっていました。まるで真っ白のキャンパスにこれからどのような絵が描かれるのだろうと胸ふくらませました。その絵は、同窓生の皆様が学ばれた科学技術を生かし各分野で社会貢献されている姿を見る時、素晴らしい絵に完成したことが判ります。そして、これからさらに筆が加えられ、発展していくものと楽しみにしております。

医療栄養学科では、平成17年11月の大学祭の折に講義棟B棟ラウンジにおいて同窓会(第1期生から第11期生)が開催されました。同窓生(第11期生)と当時の在校生(第13、14期生)の協力により実現致しました。出席された同窓生は全国各地から、北海道からも、沖縄からも、久しぶりに出会うなつかしさに、その会場は熱気に包まれ、実に感動

的でした。同窓会が盛会であったことは、学生生活を有意味に過ごされ、そして今、社会にあって、活躍されていることの証であり、出席させて頂いた私は、本当にうれしく思いました。

近年、社会の変化は急激で、そのニーズに添えていくのは大変努力が必要と思います。食の文化に携わっておられる医療栄養学科の同窓生の皆様も現場において、その対応に苦慮されることも多いのではないのでしょうか。食生活面での重点は生活習慣病への対応から、その予防へと移行し、現在は「食育」が加わって参りました。

明治期に著わされた「食道楽(村田玄斎)」に知育よりも、徳育よりも、体育よりも食育が大切とあります。食生活に関心を持ち、心し、実践することが大切であるということです。我が国では、高度経済成長により物質的には豊かさを得ましたが、一方で、大切なものを失い、食生活にも歪みを来しました。医療分野、教育分野、各家庭において専門家(栄養士)の食育の指導を求めています。地産地消、手作り、家族揃っての食卓などのリーダーとなって下さい。食については国民ひとりひとりが、少し気をつけることで心身の健康のみならず、医療費、環境、教育問題も、自ずと改善されます。

同窓生の皆様のご活躍とご健康を心よりお祈り致しております。



■ 医用工学部 / 大学院研究科 教授 石渡裕政先生



石渡先生は3月末に医用工学部教授の職は辞されましたが、この春新たに鈴鹿医療科学大学客員教授に就任され現在もご活躍されています。

同窓生の皆さん元気にご活躍のことと思います。私はこの3月で大学を去り、気ままな生活に入ります。この機会に日頃考えている事の一部を述べさせていただきたいと思ひ筆を取っています。

1期生が本学に入学した頃と現在の大学生の生活を見ただけで、大変な時代の変化が有った事に気がつきます。身近なところでは携帯電話が最たるものでしょう。学生時代に携帯電話を持っていたと言うのは7期生くらいから以降ではないでしょうか。携帯電話の普及とともにあっという間にカメラがつき、インターネットも出来るようになり社会全体に大変なインパクトを与えました。職場ではどうでしょうか。放射線部門や臨床工学部門は特に技術の変化が激しかったように思います。このような変化は否応無しにこれからも絶え間なく続きます。また技術の変化だけでなく医療制度そのものも絶えず変化しています。皆さんはこれら技術の変化や社会の変化にどう対応して来たでしょうか。

これから10年くらいは電子カルテに関連する変化が起こります。既に一部では起こっていますが、今後は大病院だけではなく診療所レベルまで対象になっていくでしょう。これらに関連した職場では日常的にパソコンの使用が不可欠になります。この変化は医療全体にどのような影響を与えるでしょうか。各職種ごとに若干の違いはありますが、皆さんそれぞれで考えてどう対応

するかを考える事は大変重要です。時代の変化を先取りして対応出来るように準備し、積極的に変化を取り入れて行く気概を持って欲しいと思っています。

技術の変化への対応には基礎的な知識の習得が出来ているかいないかで大きな違いが生じます。例えば超音波診断装置が新しく導入された時代(ほぼ30年くらい前になると思います)の技術者の対応はどうだったでしょうか。放射線技術者は放射線物理やセンサー技術、画像構成の基礎的知識を持っていた筈です。新しく超音波診断装置を理解するためには、超音波に関する事は勉強する必要があったでしょうが、超音波の画像構成については画像基礎がわかっていたら容易に理解出来た筈です。新たに勉強し直さなければならぬところは超音波という波に関する事だけと言っても過言では有りません。しかしもし基礎的な知識を持っていなかったとしたらどうでしょうか。超音波診断装置のすべてを新しく勉強しなければならなくなり、膨大な量になります。場合によっては其の量に耐えきれずに諦めた人もいるかも知れません。

皆さんは4年間の大学教育で国家試験に必要な事だけを勉強したのではなく、将来のために必要と思われる基礎的な知識を含めてみっちり勉強して来ました。したがって技術の変化にも対応出来る能力を十分に持っています。新しい技術の導入に対してはこの能力を最大限

生かして臆する事無く積極的に対応して下さい。それが職場における皆さんの立場をさらに際立ったものにするでしょう。

職場を良くする、あるいは職場における立場を向上させるにはどうしたら良いのでしょうか。いろいろな方法があると思いますが、一つの方法を皆さんに考えてもらいたいと思います。仕事を始めて数年以上経過した人は多分経験していると思いますが、自分1人の力ではどうにもならない問題があります。1人で解決出来そうもなければ何人かで共同して解決することになります。もし職場全体で努力しても難しい問題があるときはどうでしょうか。例えば医療全体に関わる問題などが特にそうです。このような時にはどうすれば良いのでしょうか。職場単位で難しければもっと広く横断的な協力体制を利用する事です。皆さんは同窓生という共通の意識を持っています。同窓会を中心とした協力体制を作って横断的な問題解決に向かうというのはどうでしょうか?同窓会は単なる親睦の集まりだけではなく、同じ考えを持つ人達のために何が出来るかを真剣に考える時期に来ていると思います。また同窓会は頼るものではなく、自分達のために利用するようしたらどうでしょうか。本学の設立は放射線技師会の会員の総意によるものでした。この設立の経緯を今一度考えて、皆さんで同窓会をもり立て、さらには本学をより良くするよう後押しをお願いします。

碧鈴祭同窓会 ブースが 設置されました!

2006年11月4、5日に開学から続く第16回目の鈴鹿医療科学大学 碧鈴祭が行われました。昨年度に続き同窓会ブースを同窓生限定抽選会と銘打って、実習棟2階に設置しました。多くの皆様のご協力もあり1期生の方々から12期生の方々まで100名近くの同窓生の方々がブースの方へと訪ねて下さいました。10年を超える卒業以来の再会を懐かしんでおられる人や家族連れで食事をされている人、皆で念を込めて抽選に望む人、特賞が当たった人のうれしそうな表情など様々な姿が見られ、皆様に大変喜んでいただき会場内が大きく盛り上がりました。どうもありがとうございました。



特等 (ニンテンドーDS Lite) 渡辺友香さん (放射線技術科学科12期生)

素敵な景品をいただきありがとうございました。
碧鈴祭では、数ヵ月ぶりに再会した友達とも近況を語る事ができました。学生時代の友達は、学内だけでなく生活の一部を共有した仲間であり、四年間の苦楽を共にしてきました。国家試験勉強は、この仲間がいたからこそ励まし合い乗り越えられたものと思います。決して一人では成せなかったと思います。
私にとって、親元を離れて過ごした鈴鹿での四年間の生活はとても貴重なものでした。そして、そこで出会った仲間は、社会に出ても支え合える友達です。



1等 (SONYネットワークウォークマン) 大場明日香さん (放射線技術科学科12期生)

卒業して一年が経ちました。この一年はあっというまに時間の早さを感じました。この一年を振り返ってみると、まず仕事では、覚えたてのころは何でも不安で不安でしかなかった日々でした。きつと仕事したくないオーラがでていたような気がします…。けれど、経験していくうちに動きや要領をつかんできました。そして少しずつこなすスピードも早くなりやっとなんか楽しいと思えるようになってきました。また、患者さんや受検者の方に接するとき、思いやりをもって接すればその答えが返ってくることもわかりました。今はまだ迷惑をいっばいかけ成長しなければいけない毎日ですが、周りにいるスタッフに恵まれがなっています。これも、大学で出会い今でも変わらず交流をもってくれる友達がいるからだと思えます。相談や、時には愚痴を聞いてくれたり、おもしろいことで笑いあったり励まし合い支えてくれる人が周りにいるからです。

昨年度の学祭や国試後に鈴鹿にきたときみんなに会いました。社会人になったとはいえやっぱり話すと学生のころを思い出してまだ学生のような気がしました。それが現実に戻るとがっくり…。

とはいえ、社会人2年目。より責任感を強くもち、仕事をするときには一生懸命に、遊ぶときはめいっぱい、メリハリをつけていきたいと思えます。鈴鹿に住んで多くの人と出会えてよかったです!これからもこの交流を大切にしていきたいと思えます。

1等 (SONYネットワークウォークマン) 大部 悠さん (放射線技術学科11期生)

放射線11期生、みんな元気になっていますか?

大学を卒業して早、2年になります。大学に入ってきた当初は、とても漠然と考えていただけでどのようなことをする職業なのかも知らなかったのに、もうそれから6年も経ってしまいました。大学時代はあまり勉強に熱心…というほうではなかったし、友達と交流を深めるほうに力を入れていたので、放射線技師という職業がどのような仕事かわかりはじめたのが4年の時の臨床実習でした。臨床実習は、あまりいい思い出はないけれど先輩技師を見ていて、将来あんなテキパキした技師になれるのだろうかと不安に思ったものでした。今はまだ就職2年目なのですが、やっと仕事にも慣れてきて少し余裕ができてきました。ついても、基本がドジなので少しミスが多いのですが……。しかし、こんな私だからこそ患者様には丁寧に接するように気をつけています。それぞれ違う気持ちで病院へいらっしゃるので顔色とか言葉遣いなどをみながら接するように心がけています。また、自分の能力アップも目指してまだまだ勉強中です。また、こんな仕事の話も踏まえながら皆さんに会える日を楽しみにしています。



CAMPUS REPORT

母校しポート

大学内売店が
リニューアルしました!



SUMSTクラブ横にある大学内売店が昨年、リニューアルされました。「ヤマザキショップ」の出店で、売店内はよりコンビニエンスらしいものとなりました。

飲料やお菓子、コンビニ弁当はもちろん、文具や日用品、雑誌なども取りそろえており、とても便利になりました。また隣接するSUMSTクラブの特製弁

当も販売されており、暖かいお弁当が食べられるようになっています。

お昼に行くと、太陽の光がお店全体に入り込みとても明るく開放的で長居をしたくなるような雰囲気があります。鈴鹿に来たときはぜひ一度訪ねてください。



同窓会掲示板

このコーナーでは、クラス会や部活、研究室OB会などの開催のご案内をしています。同窓会開催予定のある方はぜひこのコーナーをご利用下さい。

同窓会会報は年2回(春、秋)発行予定です。同窓会ホームページでは随時同窓会案内が可能です。会報またはホームページに掲載希望の方は日時、場所、内容、連絡先など明記の上、同窓会事務局 (mail@sums-aa.com) までご連絡ください。皆さまの利用をお待ちしております!

編 集 後 記

例年より暖かい今年の冬も終わり外はめっきり春らしくなってきました。鈴鹿は屋間外に出ればあ〜と背伸びをすると頭の中もリフレッシュされてとても気持ちのいい日々が続いています。同窓会も発足13年、新しい同窓生も増え徐々に規模も大きくなると共に、同窓会活動もさらに活性化してきました。維持会費へも多くの同窓生にご協力を頂きありがとうございました。ご協力いただいた同窓生の皆様のご芳名は次号に掲載させていただきます。これからも同窓会のさらなる活性化のため、ご理解とご協力のほどお願いいたします。

次号(秋発行)では、大学祭イベントなどを中心にさらに盛りだくさんな内容でお送りしたいと思います。次号もお楽しみに!(ま)